

福岡県米麦大豆生産改善速報 8 号

令和 2 年 3 月 1 9 日
福 岡 県
福岡県米麦品質改善協会

麦の生育概況と対策

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	2月28日～3月18日 (20日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	9.4	14.3	3.9	98.5	78.5
前年差(比)	-0.1	-0.1	-1.2	109%	70%
平年差(比)	+1.1	+1.3	+0.1	110%	104%

注) 平年は 1981～2010 年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦の生育 [小麦:11月20日播種、大麦:11月25日播種]

2月28日～3月18日の平均気温は平年より 1.1℃高く、日照時間は 10%多く、降水量は平年より 4%多かった。

3月19日現在の生育は、草丈は平年に比べて大麦で 34～72%、小麦で 33～42%長かった。莖数は大麦で 9～30%少なく、小麦で平年並～20%少なかった。主稈葉数は大麦で平年並～1.1葉多く、小麦で 0.8～1.8葉多く、生育は極めて早い。今後の気温が平年並で経過した場合、出穂期は大麦で 12～14日、小麦で 14～16日早いと予想される。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

降水量が多く、ほ場の湿潤状態が続いているため、今後も排水対策が極めて重要である。排水溝の溝さらえ、排水口の整備を行い、速やかな地表水の排水を図る。

(2) 赤かび病防除

麦類の収量、品質に対する赤かび病の影響は大きく、防除は必須作業である。小麦と裸麦は開花期(出穂後 7～10日)、二条大麦は蒴殻抽出期(出穂後 12～14日)に必ず防除を行う。

赤かび病に弱い品種(ラー麦 [ちくしW2号]、ミナミノカオリ、はるか二条、イチバンボシ)や、降雨や曇天が続く多発生が予想される場合には、7～10日後にもう一度防除を行う。特に、不稔を生じたほ場は、赤かび病が発生しやすいため注意する。

防除薬剤は、「普通作病虫害・雑草防除の手引き」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(3) 穂揃期追肥

子実のタンパク質含有率を向上させるため、ラー麦とミナミノカオリは穂揃期追肥として 10a 当たり窒素量 5kg を、穂揃期～穂揃期後 7日に必ず施用する。尿素の葉面散布を行う場合には、10a 当たり窒素量 2.5kg を開花期と開花期後 7日頃に 2回施用する。

小麦においては、毎年、タンパク質含有率が低い地域や葉色の低下が著しい場合は、チクゴイヅミ等の日本めん用品種では穂揃期追肥として 10a 当たり窒素量 2kg 程度を施用し、ラー麦とミナミノカオリでは 10a 当たり窒素量 6～7kg 程度を施用する。

4. 農林業総合試験場における調査成績

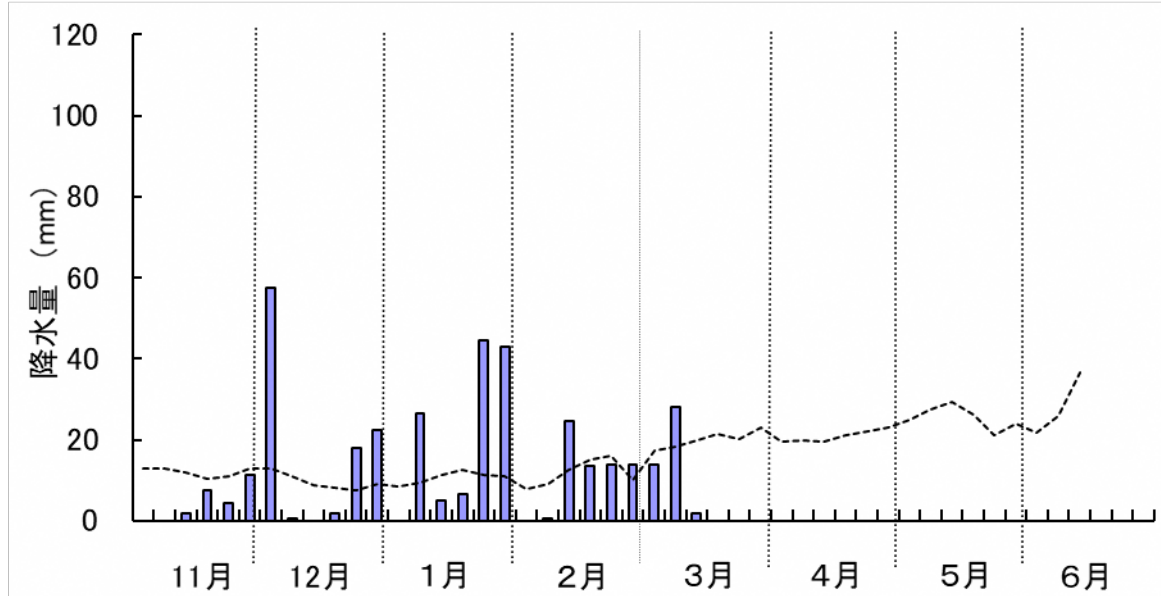
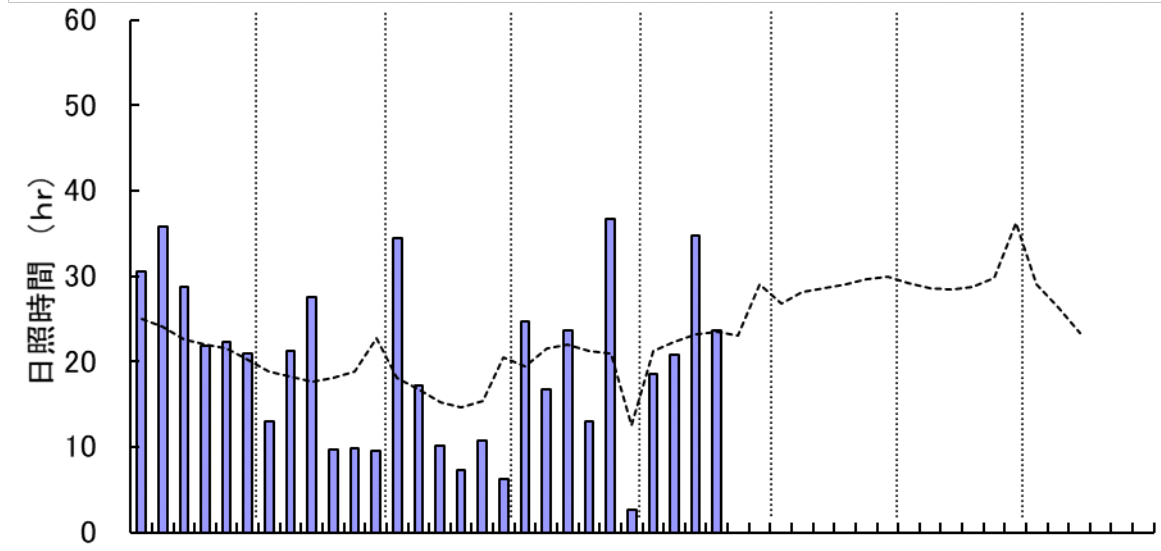
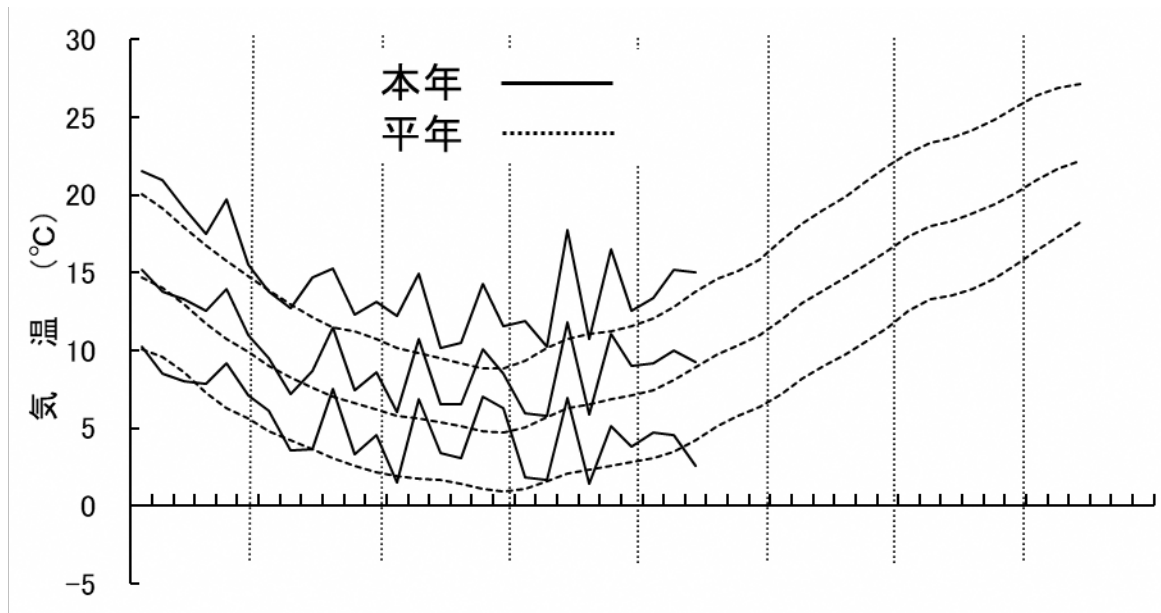
調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	2月28日			3月19日			茎立期 月. 半旬	予想 出穂期 月/日
				草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数		
				cm	本/m ²	L	cm	本/m ²	L		
農産部	11.20	チゴイグミ	本年	51.0	597	8.2	69.3	572	9.0	2.2	3/25
			前年比(差)	112	58	+0.9	93	64	+0.5	(2.3)	-8
			平年比(差)	198	78	+1.6	142	80	+1.0	—	-16
		ラー麦 (ちくしW2号)	本年	51.7	507	8.1	67.7	518	9.0	2.1	3/23
			前年比(差)	103	66	+0.7	86	73	+0.3	(2.3)	-7
			平年比(差)	187	75	+1.4	134	81	+0.8	—	-16
	11.25	ほうしゅん	本年	40.9	988	8.5	64.6	940	8.8	2.4	3/25
			前年比(差)	111	75	+0.5	96	78	-1.2	(2.4)	-5
			平年比(差)	214	90	+1.8	172	91	±0	—	-14
筑後分場	11.20	シロガネギ	本年	42.7	740	9.2	66.7	694	10.5	2.3	3/23
			前年比(差)	113	81	+1.4	99	82	+0.5	(2.4)	-10
			平年比(差)	161	89	+2.1	134	90	+1.8	—	-14
		ラー麦 (ちくしW2号)	本年	47.9	751	8.8	70.8	692	9.4	2.1	3/22
			前年比(差)	95	105	+1.3	91	102	+0.5	(2.3)	-6
			平年比(差)	163	104	+1.9	133	103	+1.0	—	-14
	11.25	はるしづく	本年	33.1	989	9.0	62.1	738	10.5	2.4	3/22
			前年比(差)	85	73	+0.6	83	71	±0	(2.3)	-3
			平年比(差)	142	82	+2.0	134	70	+1.1	—	-12

注1) 平年値はH21～30年播の平均値。

2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

3) 前年比(差)、平年比(差)：草丈および茎数は前年比および平年比、出穂期および葉数は前年差および平年差を示す。

4) 予想出穂期は今後の気温が平年並で推移した場合の予測値。過去の播種期および出芽期～出穂期の積算温度とこれまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス: 令和元年11月～令和2年6月)